



教室の窓辺

子どもたちの姿から学びたい

碧南市立東中学校 教諭 杉浦 創

東中学校には、「みそあじ」という生活目標があります。「み」は身なりを整えること、「そ」は掃除に無言で取り組むこと、「あ」はあいさつを進んですること、「じ」は時間を意識して生活することを示しています。私もこの「みそあじ」をしっかりと守れる生徒を育てていきたいと考えていました。

私を受けもつ中学3年生は、入学したての頃、なかなかあいさつができなかったり、授業開始時に着席ができていなかったりと、伝統の「みそあじ」を守っていきけるのか心配な姿が見られました。そこで、学級役員に呼びかけたところ、役員たちは「みそあじ」を強く意識した生活強化週間を計画したり、集会や授業の中で「みそあじ」の大切さを訴えたりしました。

その結果、今では子どもたちは、自分から進んであいさつをしたり、床に膝をついて黙々と雑巾がけをしたり、お互いに時計を見て声をかけ合い、授業開始2分前には学級全員が着席していたりと、「みそあじ」を意識した学校生活が当たり前となつています。今では、「みそあじ」は学年目標の一つとして、子どもたちを支える土台とな

りました。

この学年にはもう一つ学年目標があります。それは「DIVERS」です。「DIVERS」とは多様性という意味です。先の読めない時代だからこそ、多様な視点をもつ大人になってほしいという願いを込めて掲げました。集会や行事など節目目で「お互いの違いを認め合い、ともに歩んでいくこと」を伝えてきました。

1年生の「Happy East Beach」という市内のビーチバレーコートで学年レクを実施する行事では、生徒の多様性を意識した姿を見ることができました。

行事の中心となつた実行委員は、「運動が苦手な子でも楽しめるほうがいいよね。」「勝ち負けがはっきりするものばかりだと嫌になる子もいるかも。」と、内容を工夫したり、競い合うものばかりにならないように調整したりと、さまざま

な視点をもつて準備することができました。

3年生の体育大会では、応援団長の一人が団員に「日常生活の延長線上に行事があります。」というメッセージを伝えていました。「みそあじ」という土台の上でこそ、行事をしっかりと行うこ



1年生の学年レク

とができるのだと、まるで教師が投げかけるような言葉を発信したのです。また、応援合戦の練習時には、「みんなが主役になれるように立ち位置を入れ替えよう。」「なるべくわかりやすくして誰もが踊りやすい演舞にしよう。」と、多様な視点を意識して進めていました。学年目標がしっかりと積み上がってきていると感じた瞬間でした。

想いを抱いて「めざす生徒像」を描き、明確な「目標」を立てることの大切さ。この3年間、ともに歩んできた学年の子どもたちから、学年経営も授業と同じ側面をもつのだと教えてもらったと感じました。彼らから学んだことを糧にして、今後一層頑張っていきたいと思えます。

杉浦教諭は本校で9年目を迎えています。この間に多くの職務を経験し、教師としての視野を広げるとともに、貴重なミドルリーダーとして活躍しています。「みそあじ」は平成20年に本校に導入されて以降、教員と生徒で共有しやすい生活目標として定着しています。

どんな教育活動も、基盤となる日々の生活が安定したものでなければ、それは本物とは言えません。本校では「みそあじ」を深く浸透させ、日常を確かなものにするこで、成長につなげたいと考えています。

その点で、杉浦教諭は学年主任としての強い信念をもち、段階的に適切な刺激を与えながら、生徒の育成に努めてきました。薫陶を受けた3年生諸君は、全員立派な「本物の」東中生に進化しています。

(校長 石原 竹倉)